

し わ 紫波 ネット

SHIWA-NET
人と地域をつなぐ広報紙
No.901 2014

12

紫波ネット901号 平成26年12月10日発行
岩手県●紫波町 〒028-3392 紫波町日詰字西裏23-1
印刷・川嶋印刷株式会社

<http://www.town.shiwa.iwate.jp/>



【表紙の写真】 町内の小中学校で11月28日、「いい肉の日献立」として、紫波もちもち牛を使用したビーフシチューをはじめとする地産地消メニューが給食で提供されました。日詰小学校の2年生の各教室には、生産者が訪問。児童たちは、生産者の方々から紫波もちもち牛の飼育方法などについてお話を聞きながら、一緒に給食を味わい、交流を深めました。



生産者の皆さんと一緒に、
感謝を込めていただきます!!

給食で「いい肉の日献立」(11月28日)

町の皆さんから寄せられた
ご意見・ご質問を紹介します

まちづくり座談会 報告 04

- 02 振り返ろう2014
- 08 食農話題トピックス
- 10 雪シーズン到来～除雪にご協力をお願いします～
- 10 「ゾーン30」古館地区でスタート
- 11 豊かな公が息づくまち
- 12 国体だより
- 14 環のくに紫波
- 16 健やかランド紫波
- 24 シリーズ行ってみよう 訪ねてみよう紫波の達人



食農話題トピックス●ピカリン農園収穫祭



話題●「ゾーン30」広報活動



まちの話題●志和蜜の市



食農話題トピックス●わんぱくまつり

2月●藤原孝町長が退任



2月●熊谷泉町政がスタート



昨年12月

●情報交流館が来館者50万人達成



3月●水道事業所が閉所



2月●巽聖歌童謡まつり



5月●“産直のまち「紫波」”
情報発信システム始動

1月●ラ・フランス温泉館が
来館者450万人達成

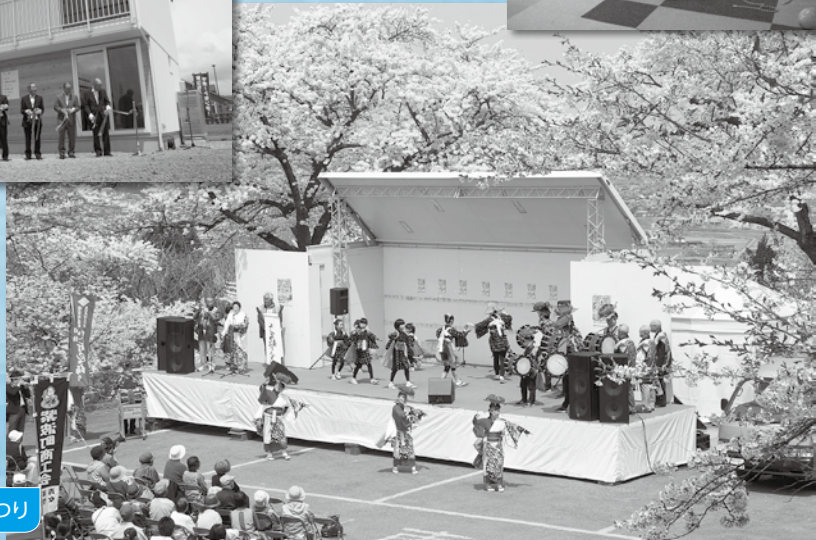


6月
●紫波型エコハ
ウスサポートセン
ターがオープン



5月
●産直「紫波マルシェ」が
来店者50万人を達成

4月●城山桜まつり



6月

14日 野村胡堂・あらえびす記念館開館20周年記念式典
開催
11日 彦部地区に三井報恩会事業記念碑が建立
2日 国道4号のアカマツ、松くい虫被害により伐採

5月

22日 産直「紫波マルシェ」が来店者50万人を達成
27日 古館浄水場起工式
31日 産直のまち「紫波」情報発信システムが始動

4月

26日 見事な満開の中、城山桜まつり開催
27日 紫波町鳥獣被害対策実施隊が結成

3月

1日 紫波町ごみ減量女性会議設立10周年記念の集い
6日 エネルギーステーション起工式
31日 紫波町水道事業所が閉所。岩手中部水道企業団
と事業統合

2月

7日 藤原孝町長が退任
8日 熊谷泉新町政がスタート
11日 第13回巽聖歌童謡まつり開催
15日 虹の保育園創立10周年記念ファミリーコンサート

1月

18日 第9回紫波冬まつり開催
17日 紫波型エコハウスサポートセンター起工式
15日 ラ・フランス温泉館が来館者450万人を達成

昨年
12月

21日 J Aいわて中央「紫波町有線放送劇団」創設30周
年記念収録
25日 情報交流館が来館者50万人を達成

振り返ろう
2014



9月●自転車ロードレースツアー



7月●赤沢あじさいまつり



9月●小泉進次郎
大臣政務官が来町



6月●三井報恩会事業
記念碑が建立



7月●交通死亡事故
1年間ゼロを達成



8月●オガール祭り2014



9月●町消防団が
内閣総理大臣賞を受賞



7月●野村胡堂・あらえびす
記念館20周年式典



10月●町民劇場第5回公演



10月●紫波第一中学校
創立60周年記念講演

11月

6～8日 日話商店街くらみちフェスティバル開催
8日 紫波町観光案内人「じゃ・べーる」が10周年記念イベントを開催
9日 「志和蚤の市」開催
13日 古館地区で「ゾーン30」運用開始

10月

18、19日 第31回紫波町産業まつり開催。青森県平内町が初めて参加
21日 紫波第一中学校創立60周年記念講演開催。パハリンピアン佐藤真海さんが来校
25、26日 紫波町図書館開館2周年記念事業として「ただよつまなびや」文学の学校 岩手分校2014開催
26日 紫波町民劇場第5回公演開催

9月

10日 町消防団が防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞
16日～19日 中央大学「アグリプロジェクト」開催
20、21日 志和公民館主催第30回ふるさと交流学習会開催
24日 小泉進次郎大臣政務官が来町。オガール地区を視察
28日 自転車ロードレース大会観戦ツアー開催

8月

1～3日 オガールプラザ開館2周年記念「オガール祭り2014」開催
3日 第43回紫波夏まつり開催
9日 「水分夏まつり」2年ぶりの開催
22日 みちのくコカ・コーラボトリング(株)と災害時協定を締結

7月

29日 紫波型エコハウスサポートセンターがオープン
6日 赤沢あじさいまつり開催
26日 エネルギーステーションが完成
31日 町内1年間交通死亡事故ゼロを達成
民間複合施設オガールベースオープン

町の皆さんから寄せられたご意見・ご質問を紹介します

まちづくり座談会 報告

町は6月16日から24日までの間、町内各地区9会場でまちづくり座談会を開催しました。今年の座談会では、各会場で「学校の統廃合」「企業誘致」「定住促進」など、少子化や人口減少にかかわる話題が多く出されました。延べ237人の参加者の皆さんから寄せられたさまざまなご意見について、一部を抜粋して紹介します。また、会場で配布したアンケートに記載されたご意見・ご要望の一部も併せて紹介します。

昨年8月9日に発生した大雨災害に関するご意見・ご質問は、まとめて『紫波ネット7月号 No.891』に掲載していますので、ご覧ください。

○ご意見・ご質問 ●町からの回答

6月16日（月）午後7時～9時

赤沢公民館 ◎参加者24人

○地区の戸数が減少しており、**空き家**や農地の管理が不安。

●行政の私有地への立ち入りは法的に難しいですが、荒廃は地区にとっても良くないことです。今後、行政区長を通じて空き家調査を行う予定です。所有者の確認を取り、管理をお願いしていきたいと考えています。

【補足】8月に行政区長の皆さんにご協力いただいて実施したアンケート調査の結果、町内には407戸の空き家があり、

そのうち取り壊しが必要と思われるものが57戸あることが分かりました。この57戸の空き家については、所有者などの調査を進めていく予定です。

○**児童館の統合**などの予定はあるのか。要支援・要介護サービスが変わるようだが、どのようなのか。要支援の段階における生きがいにつながる施策も考えてほしい。

●赤沢児童館は昨年50周年を迎えており、建物も中央保育所の次に古い保育施設です。東部地区で統合する場合、どここの場所に設けるのかということを考える必要があります。また、地域の総合的なサービスとして、児童施設や高齢者施設を一体的に検討する考え方もあります。皆さ

んからお話を聞く機会も設けたいと考えています。

要支援サービスは、介護給付サービスから市町村の事業に移行します。平成29年度までに町でも制度を作り、現在の介護保険制度で行われているサービスを、町の事業として実施する予定です。その中で、現在行っているデイサービスと訪問サービスの質の維持、そして子どもたちを含めた多様なサロンづくりについても検討していきます。

6月17日（火）午後7時～9時

水分公民館 ◎参加者16人

○水分地区の追分団地からの**通学路**では、17人の子どもたちが水分小学校に通っている。全国的に、児童の通学している列に車が突入する事故が増えているが、歩道の建設の完成目途はいつごろか。

●追分団地から水分小学校までの通学路については、平成24年の全国一斉通学路緊急合同点検の際に、現地の状況を確認しています。本年度は、追分団地から下二合橋までの設計をする予定です。この調査設計では、路肩を広げて歩行空間を確保するなどの歩道整備の方法や、道路のどちら側に整備するのがよいかなどを検討していきます。調査設計がまとまり次第、PTAの代表の方々と協議し、予算措置が講じられた際は来年度から工事に着手したいと考えています。

また、スクールガードの充実・増員も

検討するなど、地域の中の見守り体制も強化していきたいと考えています。

○町長の公約にもあった**企業誘致**はどのように進めていくのか。(赤沢・佐比内・彦部地区でも質問有り)

●町は現在、主に首都圏で開催される企業懇談会などに参加し、企業へのPRを行っています。具体的には、紫波町や盛岡広域地域の立地上の特色や企業への支援情報などを発信しています。企業立地の場所としては、大淵工業団地や南口詰工業団地と併せて、交通の利便性が良い紫波インターチェンジ周辺を候補地として考えています。



6月18日(水) 午後7時～9時

長岡公民館

◎参加者15人

○4人に1人は高齢者の時代。子どもが少なくなっている厳しい状況の中で、**学校の統廃合**はどのように進めていくのか。今後をどのように考えているのか。(赤沢・佐比内・古館・彦部・志和地区でも質問有り)

●町内では、児童生徒数の減少に伴い、西部・東部地区の学校の小規模化が進んでおり、複式学級が増加する傾向にあります。現在のゼロ歳児が就学する平成32年度には、本年度と比較して162人の小学生が減少すると見込んでいます。

今後、少子化時代の進展に対応するため、教育委員会事務局内にプロジェクト



チームを置き、「少人数時代における紫波町教育の在り方」の検討を進めていく予定です。「子どもが大人になったときに、しっかりと生きていけるか」「今の子どもたちにとつて、どんな環境が良いのか」という視点や、地域づくりの観点などから検討するとともに、有識者や町の皆さんからご意見をいただく機会を設けるなどとして、丁寧に対応してまいります。

○**町の借金**が気になる。返済計画はどうなっているのか。

●町債(町の借金)の毎年の借入額は、ここ数年、およそ10億円ほどです。平成24年度は大型事業が重なったため少し多い14億円となりました。町債は、建物や道路、水道など、決められた用途でしか借りられません。町債の借入残高は過去10年間で大幅に減らしましたが、ここ数年は再び増加傾向にあります。

町債は、財政健全化法(地方公共団体の財政の健全化に関する法律)や地方債の許可制によって、コントロールされています。一方で、平成13年度から地方交付税の原資を補うため、臨時財政対策債によって、地方の財源不足を補う方法がとられてきました。この償還に当たっては、国が地方交付税で財政措置することになっているため、地方にとっては地方交付税と同じ意味を持ちます。しかし、国全体での臨時財政対策債の残高が大きくなってきたため、本年度からは発行を国全体で抑制することになっています。

町債は、町の事業を進めていくために

必要です。しかし、借入残高が多くなると問題があるので、毎年の町債の発行額をおおむね10億円程度にコントロールすることや実質公債費比率(平成25年度:11・5%)などの財政健全化指標を見ながら財政運営をしていきたいと考えています。

また、昨年8月9日に発生した大雨災害からの復旧費用については、昨年からの3年間で、総額約9億円を町債で確保する予定です。その元利償還金の8割から9割程度が、国から財政措置される見込みです。

6月19日(木) 午後7時～9時

佐比内公民館

◎参加者22人

○**いわて国体**で自転車ロードコースになる道路には、舗装の修復が必要となる



がある。工事から30年以上経っており、かなり傷んだ道路だと思う。普段から少しずつでも整備できないか。

●**早急に調査・点検の上、重要な危険箇所から順次補修に当たりたい**と思います。また、道路の補修以外にも「選手を気持ちよく迎えるには、どうしたらよいのか」「コスモスロードを広げたらよいのでは」という声もいただいています。国体を開くということは、町を知ってもらうチャンスです。おもてなし方法の検討、施設やコースの整備など、さまざまな準備を積み重ねながら、来るべき日を迎えたいと考えています。

○**クマやシカが増えている**と感じている。銃猟禁止区域の看板が新しくなっていたが、彦部山の周り、長岡の周り、赤沢小学校の周りである中でも佐比内地区だけ特别多いように思う。このままでは「フルーツの里」ではなく「鳥獣の楽園」になってしまつので、禁止区域は縮小した方がよいのではないか。

●この5年ほどの間に、クマ、ハクビシン、シカ、イノシシが増えました。禁止区域は5年ごとに見直しており、地域の方々の意見を反映させながら作成しています。次の見直しときは、もっと広くご意見を伺いながら作りたいと思います。

また、町の猟友会は20数人しかいないので、隊員を増やすことも考えていく必要があります。

6月21日（土）午前10時～正午

古館ふれあいホール

◎参加者35人

○**新庁舎のバリアフリー計画**を教えてください。

●新庁舎の1階には、町の皆さんがよく訪れる町民課、福祉課、長寿健康課を配置しており、段差の少ない建物にする計画です。2階と3階に上るためのエレベーターも整備し、各階には多目的トイレ、1階にはオストメイトのトイレも設置します。

○行政區長や婦人協力隊、交通安全母の会など、**さまざまな役**がある。若い時に



はできたが、地区全体で高齢化が進んでおり、役を務められる人がいない状態。何か方策を考えてほしい。

●高齢化は、どの地区でも進んでいる状況なので、町全体で考えていかなければならない問題だと捉えています。今一度、現在の取り組みを検証してまいります。

○**古館駅周辺の整備**を早めにしてほしい。駐輪場が満杯だ。（アンケート記載内容）

●古館駅周辺は、町内にある他の2駅に比べて公共施設の整備が遅れており、朝夕の通勤通学時に混雑し危険な状態になることから、町としても交通環境の改善が必要だと考えています。古館駅周辺の施設整備を進めるためには、課題が山積していることから、現在これらの整理、検討を進めているところです。整備方針を決定した上で、財政事情を考慮しながら事業を進めたいと考えています。

6月21日（土）午後1時30分～3時30分

情報交流館

◎参加者28人

○**エコ3センター**の借金を減らすには、今やめるのが一番良いと思うが、現在の取り組みはどうなっているのか。借金の償還計画を立てて、改善するようにしてほしい。

●**エコ3センター**は「環境と福祉のまち」の推進を念頭に置き、資源循環と家畜排せつ物処理のために造った施設です。新しい攪拌機（かくはんき）を導入したことにより、県内

のホームセンターで3000袋ほど新規の販売が増えています。堆肥は需要があるため、販売の増加に対応しながら、赤字を少しでも減らしていきたいです。

○オガール地区沿線にある**樹木の管理方法**について十分に考えてほしい。

●希望ヶ丘線、中新田線の植樹計画は、災害の発生で遅れています。地区周辺にお住まいの皆さんの意見を聞きながら決めたいと考えています。計画に当たっては、景観が長続きし管理しやすい方法を目指します。

6月22日（日）午前10時～正午

赤石公民館

◎参加者44人

○地域の**街灯設置**の要望はどのように申請すればよいのか。（水分地区でも質問有り）

●防犯灯の設置には、東北電力からの寄贈灯を活用する方法と、設置費用を各行政区で負担していただく2つの方法があり、各行政区とも主に寄贈灯を利用いただいています。震災以降、しばらく寄贈がありませんでしたが、本年度は7基の寄贈を受けています。これに対して応募は39件あり、寄贈灯だけでは皆さんの要望にお応えできない状況です。

地域の負担で設置をご検討の際は、添架式で1灯5～8万円、ポール単独で10万円ほど見込んでいただければと思います。

設置後の防犯灯の電気料金を町で負担できる制度もあり、また、道路管理上必要と考えられる交差点などへの設置は、町で対応可能な場合もありますので、ご相談ください。

○赤石第2こどもの家は、育ちざかりの子どもの活動には狭すぎる。この地区でも遊び場がないことを嘆いている。町ではどんな方針で運営しているのか。

●「こどもの家（放課後児童クラブ）」は、1人当たり1・65㎡以上のスペースを確保するように定められています。放課後、家に誰もいない家庭の子どもの施設で守るという目的で運営しているため、運動



を想定した造りにはなっていません。
【補足】 こどもの家には公営と民営があるため、一律に専用の遊び場を確保することは難しいので、近くの公園などの活用を考えていきたいと思います。

6月23日（月）午後7時～9時

彦部公民館

◎参加者12人

○（一社）観光交流協会が行っている駅前の**レンタサイクル**の利用状況を教えてください。

●紫波中央駅には4台、日詰駅には2台のレンタサイクルを設置しています。設置してから利用率は良かったのですが、



用途目的が観光ではない場合もありました。現在、土日にも対応できるような体制を目指しているところです。情報交流館の中に、観光案内板の設置をするなど「自転車のみち 紫波町」をPRしていきたいです。

○**総合体育館**の機械器具が老朽化しており、買い替えが必要だと思つ。

●給食センターと総合体育館は、町でいち早く取り入れた施設のため、機械器具の老朽化が進んでいます。更新については、体育協会と連携しながら進めていきます。

6月24日（火）午後7時～9時

J A志和支所

◎参加者41人

○「この町に住んでもらう」という**定住促進**の視点から人口増加対策を考えてみてはどうか。女性を大事にし、子育て支援を充実させ、医療費を無料にするなど、発想の転換が必要だと思つ。

●町の人口は少しずつ減る傾向にあり、国道4号沿いの人口は増えている一方、西部・東部地域では減少しているのが現状です。対策としては、町の人が働ける場の創出と、子どもを安心して産み育てられる環境の整備を進めていきたいと考えています。そのためには、企業誘致を進めるとともに既存企業の支援を実施すること、子どもを安心して産み育てられる制度を充実していくことが必要であると考えています。



○新庁舎に移転した後の**庁舎や保健センターの跡地**の使い道は。

●町で公共施設として使用するか、町の所有地とするかなどを庁内で調査し、将来的に利用する部署がない場合には、土地を貸すか売るかなど、さまざまな検討をする必要があります。町民のご意見を聞くと同時に、維持管理費などを含めた公共施設の全体的なバランスを考えながら決めていかなければなりません。

○昨年**すこやか号**のコースが変わり、不便になった。もう少し細かく回ってほしい、1周にかかる時間も長すぎるので変更してほしい。

●今回の変更で、路線を大幅に増やし、1周にかかる時間も短縮しましたが、すべての皆さんのご要望をカバーすることは難しいです。ルートの変更は、国の許可が必要であるため、すぐには行うことができませんが、次の改訂のときの参考とさせていただきます。

「担当」企画課 情報政策室

☎(072)2111 内線3232

県畜産共進会で名誉賞 畠山正宏さん

岩手畜産流通センターで10月25日、第46回岩手県畜産共進会「肉牛の部」が行われ、片寄地区の畠山正宏さんが肥育した肉牛が最高賞の名誉賞に輝きました。大会には、県内で育てられた100頭が出品され、脂肪の入り方や肉の付き方など全11項目において評価されました。

畠山さんは「町内で生まれた牛を、町内で育てたい」と考え、約20年前から町内の繁殖農家から買った子牛を飼育。餌には、町産ヒメノモチを餌として与えており「紫波もちもち牛」とし

て販売しています。今回の受賞を受け、畠山さんは「ようやく答えが出たなと思いました。家族みんなで一生懸命育ててきたかいがあります」と確かな手ごたえを感じていました。

BSE問題や放射能の風評被害により、しばらく消費量が低迷していた町内畜産業。しかし、今年10月に行われた産業まつりでは、「しわ牛研究会」が販売する商品が2日目の午前中で完売するなどの消費回復の傾向が見られ、畠山さんは「紫波もちもち牛」の浸透を実感されたそうです。「これからも

優勝カップと賞状を手に喜びを語った
畠山正宏さん(左)と息子の満正さん(右)

消費者の方々の期待に応えられるようないい牛を育てていきたいです」と決意を新たにすると、畠山さんの今回の受賞は、町産牛肉および町の繁殖農家のさらなる評価の向上につながるものと期待されます。

農業を元気にする若い力 認定農業者に百済さんと富岡さん

町外出身の若手就農者2人が新たに町の認定農業者となり、11月13日、熊谷町長から認定証書が交付されました。

佐比内地区でブドウを栽培している百済和至さん(花巻市出身、34歳)は、東日本大震災を機に首都圏からUターンし、紫波観光ブドウ園(佐比内)でブドウ栽培の基礎を学んだ後、独立。現在は、農村青年クラブや東葡萄倶楽部などに所属し、若手農業経営者との情報交換に積極的です。「就農して3年

が経ち、たくさんの方のご協力でようやくスタートラインに立てたという気持ち。紫波町に恩返しできるように頑張っていきたいです」と気持ちを新たに、意欲を燃やしています。

また志和地区でミニトマトの栽培を行っている富岡友佑さん(盛岡市出身、31歳)は、高橋農園(片寄)で農業研修を受けた後、29歳で独立。現在は、甘さにこだわった高品質トマトを生産しており、町内の飲食店の

メニューにも使用されるなど、周囲からの評判も高まっています。「農業に関わりながら、町全体を活性化させるような活動をしていきたいです」と気合に満ちあふれています。

※「認定農業者」とは、法に基づき町の基本構想に沿った計画を立て、町に認められた就農者。現在、町内認定農業者は205人。

熊谷町長から期待の言葉をかけられた百済さん(左)と富岡さん(右)

実りの喜びを実感 佐比内ピカリン農園収穫祭



地域の人たちから教わりながら、パンケーキづくりに挑戦する児童たち

佐比内地区教育実践協議会（山下研悦会長）と佐比内小学校PTA（梅津和輝会長）は11月23日、佐比内公民館でピカリン農園の収穫祭を行いました。佐比内小学校の児童と保護者、地域の方々など約60人が参加し、高学年は手打ちそば、低学年はサツマイモのパンケーキとサラダ、焼き芋作りに挑戦しました。材料のサツマイモとソバは、初夏から秋にかけ、児童たちが一生懸命育てたもの。今年は畑の畝作りや草取り、ソバの実の脱穀なども体験し、育てる苦労も味わいました。児童たちは「パンケーキを焼くとき、形をつくるのが難しかったけど、おいしくできてよかったです」「そば粉を練るのは力が必要だったし、切るのには集中力が必要でした。自分たちが一生懸命つくったものを、みんなと一緒においしく食べられてよかったです」と達成感をにじませていました。

卵料理で橋本善太顕彰 日詰小で「わんぱくまつり」



みんなで協力してプリンを作る児童たち

日詰公民館（堀内憲一館長）は、11月26、27の両日、日詰小学校で「わんぱくまつり」を開催しました。これは、日詰地区出身の名誉町民である橋本善太を顕彰するとともに、食事への興味関心を育てようと平成6年から行われているもので、今年で20回目。同校3年生の児童57人は、365日卵を産むニワトリを開発した橋本善太について、日詰地区先人顕彰会の内城弘隆さんからお話を聞いた後、プリンや鶏肉のりんごジュース煮、和風スープなどの料理に挑戦。出来上がった料理を口にした児童たちは、口々に「おいしいね」と笑顔を見せ、「コンジヤタマネギを切ったのは初めてだったけど、うまくできてよかった」「お母さんや友達と一緒に料理ができて楽しかったし、おいしかったです」とうれしそうでした。

橋本善太が開発した365日卵を産むニワトリ「白色レグホン」と、肉卵用の「プリマスロック」について児童たちに説明する内城さん（左）



丹精込めて育てたリンゴを 産直で販売 赤沢小



児童たちの一生懸命で可愛い呼びかけで、リンゴは約30分であっという間に完売

赤沢小学校の児童によるリンゴ販売が11月27日、産直あかさわの店頭で行われました。3年生の総合学習の一環として毎年行われているもので、10人の児童たちは、春から育ててきたリンゴ100個を大きさに袋分けし、手作りのメッセージを添えて販売しました。児童たちは「安いよ」「シャキシャキですよ」など大きな声でPRし、遠くにいるお客さんにも、試食用のリンゴを持っていき「試食どうぞ、おいしかったら買ってください」と、一人一人に味を確かめてもらっていました。

リンゴ栽培の各作業の意味や大変さを肌で学んできた児童たちは「お客様を呼ぶのは大変だったけど、完売できてよかった」と充実感あふれる表情で話していました。

雪シーズン到来

除雪にご協力をお願いします

町は、冬期間の交通を確保するため、町内建設業者の協力を得ながら、除雪作業を行います。皆さんのご理解とご協力を願います。

●除雪路線と除雪方法

機械作業のため、幅員4m以上の道路を対象に、通勤通学に必要な路線（2車線の基幹路線、歩道）を優先し、そのほかの道路は、生活上利用度が高いと判断される生活路線を対象に行います。

※積雪量・降雪時間・地域事情によって、除雪作業の時間帯が異なります。

◎除雪を行う積雪量の目安：降雪量がおおむね10cm程度に達したとき

●玄関先の除雪にご協力ください

降雪による交通渋滞が発生しないように、少しでも早く、広い範囲の道路を除雪するよう努めています。

道路の除雪によって玄関先に残された雪の処理は、地域の皆様のご協力をお願いします。

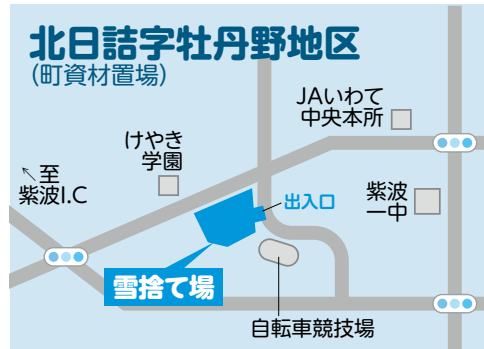
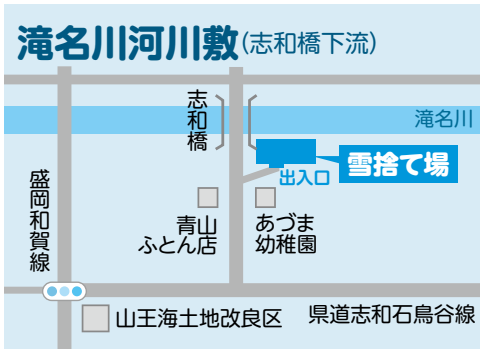
●雪捨て場の案内

本年度も、地域の一時的な雪置き場として下記の2カ所のほか、住宅密集地では公園を開放します。ご利用の際は、雪以外のものが混入しないようにお願いします。

■担当・問合せ 土木課 施設管理室

☎(672)2111

内線5141～5144



子どもや高齢者を守る交通安全対策 「ゾーン30」 古館地区でスタート

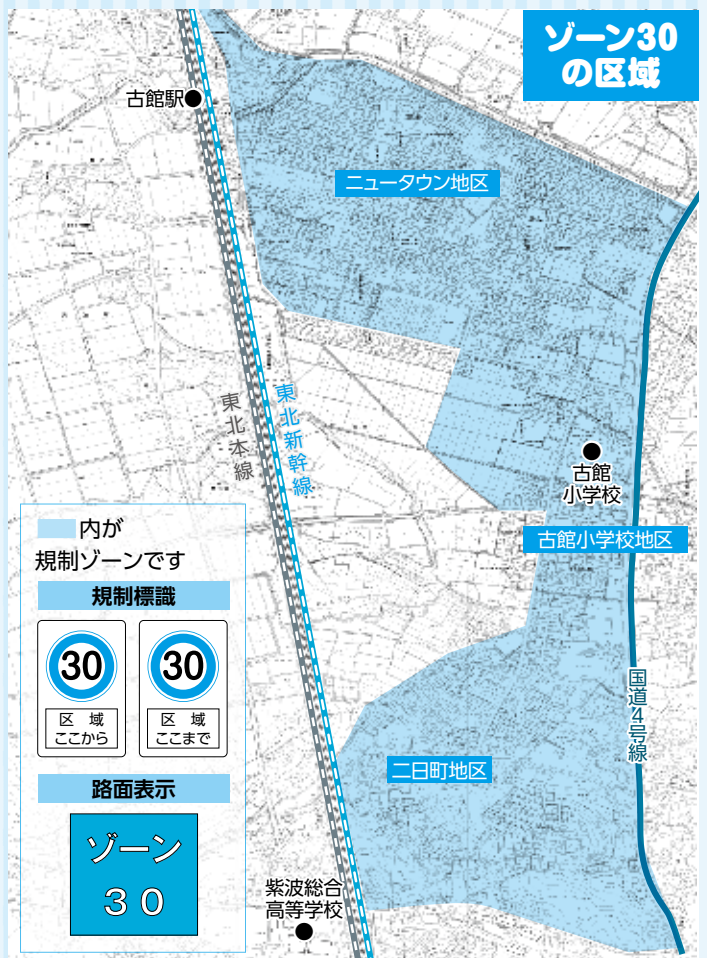
古館地区の一部の道路を30キロ制限にする「ゾーン30」が、11月13日から始まりました。これは近年、古館地区内の交通量が増加し、人身事故が発生するなど、交通の危険性が高まっていることから、歩行者の安全を確保するために実施するものです。



地域の方々に呼びかける
古館小の児童たち

11月27日には、紫波警察署の古館駐在所（千葉文明所長）主催の一斉広報活動が行われ、交通指導隊や古館地区交通安全協会、交通安全母の会などの関係者約30

人と古館小学校の6年生児童6人が参加し、ロッキー紫波店の出入り口で来店者に声をかけながらチラシを配りました。参加した児童は「ドライバーの皆さんに、ゾーン30になったことを忘れずに、これから運転してほしいです」「若い人からお年寄りまで、安全に気を付けてほしいです」と話していました。



区域内には専用の標識と道路標示が設けられています

【問合せ】総務課 消防防災室 ☎672-2111 内線3132

豊かな公が 息づくまち



今年の城山さくらまつりでの活動の様子



しゃ・beerのメンバーの皆さん



赤石神社にある南面の桜ゆかりの物語を、紙芝居で楽しみました



町の地域づくり活動補助金を活用して購入した釈台を使って披露された講談

活動紹介

町の魅力伝え続けて10年 紫波町観光案内人 しゃ・beer

紫波町観光案内人しゃ・beer（久慈和子代表）は11月8日、活動開始から10年目を迎えたことを記念し、情報交流館で「まると発表会」を開催しました。個性豊かな9人のメンバーたちが、約3時間にわたり、町の紹介や歴史講談、昔話、紙芝居など、さまざまな手法で幅広く、町の魅力を紹介。ユーモアたっぷりでやさしく温かい紫波の方言を織り交ぜたその語り口は、来場者の皆さんの心に自然と入りこむものばかり。約120人の来場者は「皆さんのしゃべりのすごさを感じました。ツアーに参加した時にいつも楽しく歴史を教えていただいています。紫波町に移り住んで本当によかったです」ととても楽しいお話を聞けてよかったです。これからも元気に活動してほしい」など、今後のさらなる活躍を期待する声が聞かれました。

しゃ・beerの皆さんはこの10年間で、町の魅力を伝えるツアーや、高齢者が集まる「いいこの家」への出前講座をそれぞれ100回ほど実施。昨年からは、紫波中央駅の待合所で土日祝日限定の観光案内所を開設。今年からは歴史講談という新しい分野も取り入れながら活動しています。

メンバーの小笠原悦子さんは「地域の多くの皆さんに支えられて今があります。これからも時代のニーズに合わせて勉強し、しゃ・beerも紫波町とともに育っていききたいと思っています。10年の節目を迎えてスタートラインに立った気持ちです」と語り、メンバー唯一の男性である石幡信さんは「町民が胸を張って紫波町を自慢できる明るい町になるように、広く町の魅力を伝えていきたい」と活動への意欲を新たにしていました。

国体 だより

おもっち
(自転車バージョン)



このコーナーでは、
平成28年に開催される
いわて国体に関わる
町の最新情報を
お知らせします!

各種目の動きな
どを取り入れた
国体ダンスの楽
しさに、笑顔が広
がっていました。



▲岩手まるとおもてなし
隊の皆さん

は「難しかったけど、うまくできた。国体が楽しみ」と2年後の大会へ胸を膨らませていました。

情報交流館に11月16日、希望郷いわて国体希望郷いわて大会実行委員会のダンスキャラバンが訪れました。これは、国体で訪れる全国の選手をおもてなしの気持ちで迎えるために、県内各市町村の幼稚園、保育所、小学校などを回っているもの。この日は、日詰第1こどもの家に通う児童約40人が、紫波町在住の高橋厚子さんから国体ダンスの指導を受けました。約30分間でダンスを習得した児童たちは最後、応援に訪れた県のPRキャラクターのわんこきょうだい「えびっちゃん」と、岩手まるとおもてなし隊と一緒に元気な踊りを披露。菊地祐輝くん(3年)

ダンスで国体を 盛り上げよう

赤石こどもクラブが オリジナル旗を作製

赤石公民館で行われている赤石こどもクラブで10月30日、いわて国体のPR活動も兼ねたオリジナルの旗づくりが行われました。クラブに参加した赤石小学校の児童たちは、いわて国体のマスコットキャラクターのわんこきょうだいや、「選手のみなさんファイト、がんばれ」などのいわて国体に向けたメッセージを旗に書き込み、国体への期待を高めていました。この旗は、赤石こどもクラブが11月1日に開いた、赤石小学校から自転車競技場までを自転車走行するサイクルイベント「ツール・ド・赤石」でさっそく応援旗として使用され、現在は赤石公民館に展示されています。



子どもたちが思いを込めて書いた応援旗

▶喜びの表情で
賞状を手にする
畠山選手(左)



▼晴れやかな笑
顔を見せた五十
嵐さん(右)



長崎国体で 畠山稔也くん、 五十嵐結衣さんが 大活躍！

長崎県で10月12日から22日まで開催された「長崎が
んばらんば国体」で、ボクシング競技少年男子バンダ
ム級で出場した畠山稔也君（黒沢尻工高3年、紫波一
中卒）が準優勝、カヌー競技少年女子カヤックペアに
出場した五十嵐結衣さん（不来方高2年、紫波一中卒）
が6位入賞を果たしました。二人とも高校から競技を
始め、3年足らずで日本一を競うほどの選手に成長。
畠山君は「大学進学後もボクシングを続けます。大学
では日本一になるのが目標。特に2年後の国体は、地
元での開催となるので優勝を目指します」、五十嵐さ
んは「来年度はインターハイでシングル、ペア、フォ
アの三冠を目指し、さらに努力していきます。岩手国
体では、一般の部となるため、まずは
出場できるよう頑張ります」とさらな
る成長を誓っていました。

長崎大会で 阿部寛之さんが 日本一に



「皆さんのおかげでメダルを取ることができまし
たと喜びを語る阿部さん

長崎がんばらんば国体に続いて
開催された「長崎がんばらんば大会
（全国身体障害者スポーツ大会）」
で、阿部寛之さん（38歳・紫波二中
卒）が水泳競技50m自由型で見事に
優勝しました。阿部さんは高校生時
代には全国大会も経験したラガーマ
ンでしたが、競技場所をグラウンド
からプールに変え、スイマーとして
全国の頂点に立ちました。

※全国身体障害者スポーツ大会とは、身体
知的・精神の障害のある人が行うスポーツ
の祭典。オリンピック終了後に開催されるパ
ラリンピックのように、国体終了後に毎年開
催されています。

国体デザイン マットでPR

いわて国体自転車競
技のPRとして、自転
車競技の写真などが印
刷されたデザインマッ
トを紫波町図書館の入
口に設置しました。デ
ザインは2種類あり、
2週間ごとに交換され
ますので、情報交流館
にお立ち寄りの際には
ぜひご覧ください。



図書館の入口で待ってるよ！

波紫にのく環

環境・循環基本計画の 進捗状況をお知らせします

町は平成13年に「環境・循環基本計画」を策定し、町の皆さんとともにより良い環境を残し伝えるための取り組みを行ってきました。平成23年度からは新たな目標数値を定め、これまでの取り組みを継続、発展させていくことにしています。

平成25年度実績を基に、本計画の進捗状況をお知らせします。

目標値と平成25年度の比較

左ページの表は、目標数値と平成25年度の実績を比較したものです。

「(1)資源循環のまちづくり」の項目では、食育、地産地消、森林資源循環についての取り組み

が積極的に行われていることが分かります。資源保管庫建設や団体による資源回



5月30日のごみゼロ運動(マックスバリュ紫波前)

収が継続的に行われていますが、家庭系ごみ、家庭系焼却ごみの1人1日当たりの排出量がわずかながら増えてきています。リサイクル率も向上していません。限りある資源の循環を意識し、一人がごみの減量化を心がけ、リデュース(ごみの減量化)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化)に一層取り組んでいきましょう。

「(2)環境創造のまちづくり」の項目では、企業の森づくり、循環型エコプロジェクト事業によるCO₂の排出削減、自然観察会などの取り組みが積極的に行われていることが分かります。純石けん(わかしお石けん)の利用は、感染症予防の為に消毒用石鹸の需要に押されるかたちで年々減少してきています。上流から沿岸部への水環境の保全を進めるため有効な取り組みですので、皆さんの積極的なご利用をお願いします。



わかしお石けん(産直マルシェ内で販売中)

「(3)環境学習のまちづくり」の項目では、地域の環境学習、食育関連講座などの項目の達成率が高くなっています



古館小学校の児童による活動発表会
(会場:アイーナ)

町の皆さんへ学習機会の提供ができています。分かります。また、平成25年度は町内の全小学校で「地球温暖化を防ごう隊」の活動を児童の皆さんが行い、エコ生活を実践しました。



料理人 野崎洋光さんと歩く食材の旅
(会場:あらえびす記念館)

「(4)交流と協働のまちづくり」の項目からは、紫波町の気候や風土を生かしたグリーンツーリズムによる交流人口拡大に向けた取り組みや、インターネット、広

報紙などを通じた情報発信が積極的に進められていることが分かります。

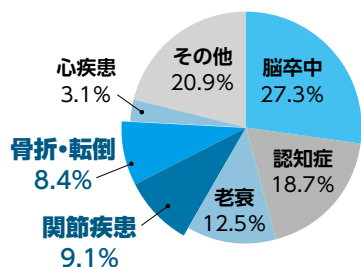
項目	平成25年度 実績	平成27年度 目標数値
	数量・件数など	数量・件数など
(1)資源循環のまちづくり		
①エコ3堆肥販売量/年	1194.9t	1400.0t
②循環型農業生産物普及農家登録数/年	35件	80件
③食育パートナー登録数/年	26人	30人
④食ナビアクセス数/日	89件	100件
⑤地産地消推進団体数/延べ	26団体	15団体
⑥学校給食地元の野菜使用量・率	3.28t(5.30%)	17.00t(30.00%)
⑦学校給食地元の果樹使用量・率	2.65t(24.30%)	6.00t(45.00%)
⑧学校給食地元の米使用量・率	52.89t(99.70%)	46.00t(99.70%)
⑨森林間伐実施面積/年	34.22ha	80.00ha
⑩町産木材利用量・一般(平成12年度からの累計)	541.97m³	520.00m³
⑪町内産木質ペレット販売量/年	187.26t	250.00t
⑫生活環境懇談会開催数・人数/年	15回(333人)	20回(600人)
⑬家庭系ごみ1人1日当たりの排出量	615g	559g
⑭家庭系焼却ごみ1人1日当たりの排出量	346g	288g
⑮ごみのリサイクル率	25.70%	31.40%
⑯資源回収団体数/年	117団体	110団体
⑰資源物保管庫建設団体数/累計	73団体	80団体
⑱資源回収団体の資源回収量/年	912t	1200t
⑲エコ・ショップしわ参加店舗/累計	16店	22店
(2)環境創造のまちづくり		
①自然観察会の参加者数/年	238人	40人
②環境診断テキスト「チェック&Do」などを活用した環境調査の実施人数/年	0人	100人
③企業の森づくり取り組み団体/年	8団体	7団体
④水洗化人口普及率	83.30%	82.10%
⑤水環境学習開催数・人数/年	0回(0人)	2回(40人)
⑥水質調査10河川の水質(※1)	A類型、0河川	A類型 2河川
⑦純石けん販売数/年	1027個	8000個
⑧循環型エコプロジェクト事業によるCO₂排出削減量/年	2119t	3500t
⑨低公害車の導入/累計	6台	7台
⑩公共施設へのグリーンエネルギー導入・太陽光発電/累計	4施設	4施設
⑪公共施設へのグリーンエネルギー導入・太陽熱利用/累計	1施設	2施設
⑫公共施設へのグリーンエネルギー導入・木質バイオマス燃料利用/累計	11施設	15施設
⑬岩手県版環境家計簿CO₂ダイエット日記取り組み世帯/年	—(※2)	300世帯
⑭太陽光発電利用世帯数/累計	(490世帯)(※3)	500世帯
⑮町内一斉清掃参加者/年	1万2132人	1万3600人
⑯まちピカ応援プログラム参加団体/年	7団体	15団体
⑰環境に関する苦情件数/年	75件	52件
(3)環境学習のまちづくり		
①学校教育での環境教育講座開催校数	4校	14校
②地球温暖化を防ごう隊員ノート取り組み学校数/年	11校	11校
③地域での環境学習参加者数/年	2939人	1100人
④保育施設等での環境学習開催数、参加者数/年	15回(781人)	18回(540人)
⑤環境関連団体主体の環境学習回数/年	20回	20回
⑥食育推進団体数	12団体	10団体
⑦食育関連講座開催数/年	41回(1182人)	40回(2000人)
⑧世代間交流(伝統・文化の学習) 小中学校/年	14校	14校
⑨世代間交流(伝統・文化の学習) 保育施設/年	226回(1万2761人)	240回(1万4400人)
⑩世代間交流(伝統・文化の学習) こどもの家/年	30回(1327人)	42回(1680人)
(4)交流と協働のまちづくり		
①グリーンツーリズム参加者数	43人	50人
②環境・循環PRセンター利用者/年	3166人	6000人
③環境・循環情報発信/年	38件	80件

(※1)大腸菌群数など、5つの指標によりAA類型からE類型までの6段階で評価するもの (※2)県「CO₂ダイエット日記」システムの運用終了(H25年3月末)に伴い、集計不可 (※3)カッコ内は平成24年度までの実績。25年度は、町の補助金事業が終了したため、集計不可。

ロコモティブシンドロームを予防しましょう

健やか
ランド紫波
健康と福祉の情報
コーナー

要介護になる原因



40代から表れ始めると言われており、頭では若いと思っても筋力が想像以上に衰えてしまつたため、思わぬ事故が起きます。

ロコモティブシンドロームは、寝たきりや要介護状態になる主な原因の一つです。要介護となる主な原因として「脳血管疾患」「認知症」「老衰」に次いで「関節の疾患」「骨折・転倒」が挙げられています。筋力の衰えは

ロコモ予防のために 健康な骨や筋肉を維持しよう

しかし、平成26年度紫波町元気はつらつアンケートの結果では、「ロコモティブシンドロームの内容を知っている」と答えた人は全体の6・6%、「言葉は聞いたことがある」と答えた人は22・6%と、まだまだ浸透していないのが現状です。

皆さんは「ロコモティブシンドローム（通称：ロコモ）」という言葉をご存知ですか。これは、骨や関節、筋肉などの働きが衰えることで、寝たきりや要介護になる危険性がある状態のことです。平成19年に日本整形外科学会が提唱した言葉で、今ではさまざまな所で、ロコモ予防が叫ばれています。

※転倒に注意して行つてください。また、足腰に痛みのある人は医師に相談してから取り組んでください。

ロコモのための運動訓練

●バランスが悪い場合は軽く手をついてもよい

●転倒しないように、机やイスなど、必ずつかまるもののある場所で行う

●前方に5cmほど上げる

開眼「片足立ち」訓練

●両目を開ける

右足で片足立ちを1分間
+
左足で片足立ちを1分間
×
朝・昼・晩3回
=1日分

●片足立ちは両足立ちに比べて2.75倍の負荷がかかる

●1分間片足立ち訓練＝約53分間歩行に相当

(公益社団法人 日本整形外科学会ロコモパンフレットより転載)

ロコモ予防に適した運動



転倒による骨折を防ぐためには、膝関節などへ負担をかけずに下半身の筋力をきたえ、バランス能力を維持することが大切です。

食事で骨を丈夫に！

運動は急にやろうとしても難しいので、若いころから適度な運動を楽しむ習慣を身に付けておくことも大切です。

少しづつ買つと運動になります。体調がすぐれない時に無理せず、ご自分のペースで徐々に活動範囲を増やしていきましょう。



また、日常生活の中でできることを今より10分間増やすこともおすすめです。掃除や洗濯、家事、庭のお手入れ、お散歩。近所の買い物は歩いて、たくさん買わずにあえて毎日

丈夫な骨を維持するために欠かせないのは、食事（栄養素）です。中でも「カルシウム」は骨粗鬆症予防に重要です。乳製品や小魚はもちろん、緑黄色野菜や海藻類、大豆製品にもカルシウムは含まれています。さらにカルシウムの吸収を高めるためには、「ビタミンD」が欠かせません。キノコ類や魚類と一緒に取ることをお勧めします。

また、納豆や青菜類に含まれる「ビタミンK・ビタミンC・葉酸」なども意識して取りたい栄養素です。





からだよろこぶ ヘルシーレシピ



昔なつかしい カボチャひつまみ

紫波町食生活改善推進員協議会 長岡地区会員
渡辺成子さんのレシピです

材料(4人分)

カボチャ……………中くらいのもの1/4個
小麦粉……………100g
水……………80~100cc
砂糖……………大さじ3~4
塩……………少々

- 1 小麦粉に分量の水を少しずつ入れながら、箸で混ぜ合わせ、こねておく。
- 2 カボチャは3cmくらいの角切りにして多めの水で煮る。砂糖を加えてさらに煮る。火がとおったら塩を加えて味を調える。
- 3 大きめの鍋にお湯をわかし、1の生地を手で伸ばしながらちぎってゆでる。2~3分ゆでたらザルにあげて水気をきる。
- 4 2のカボチャに3の生地を入れ、中火で4~5分煮たら出来上がり。

●ポイント

昔は砂糖が貴重だったので、今よりも甘さを控えて作っていました。



遺されたご家族へ

~大切な人を自死で亡くされた皆さんへ~

ある日突然、大切な人に自ら命を絶たれてしまった時、残された遺族の方々は、激しく辛い思いに襲われます。特に、自死された人を発見した人などは、強い衝撃を受けてしまいます。

「どうして変調に早く気付かなかったのか」と自分を責め立てて罪悪感に苦しめられることもあります。泣いたり、怒ったり、さらには大事な人の後を追いたくなったり、心のコントロールを超えた強い衝撃に対し、うまく対応することができない状態になります。非常に強いストレスに対する「正常な反応」といってもいいでしょう。

多くの人は、時間の経過とともに徐々に心の傷は和らいでいきますが、長年に

わたって和らがないこともあります。そのような時には、親しい人、信頼している人などに、そのお気持ちをお話してみてください。

しかし、そうした心の痛みを周囲の人に話すことは難しい人も多く、心理的・社会的に孤立してしまうことも少なくありません。そのような場合には、同じお悩みを抱えた人同士でお話することが、心の安らぎを取り戻すことにつながります。さらに、「苦しみが長く続いている」「今でも傷が大きい」など、日常生活を送っていく上で支障がある場合には、無理をせずに次のような専門機関にご相談ください。

- 全国自死遺族相談支援センター
- 自死遺族のつどい
- 全国自死遺族連絡会
- 自死遺族ライン
- 岩手県福祉総合相談センター
「こころサロン」 参加無料
- 日時 毎月第2土曜日
午後1時30分~3時
- 会場 アイーナ(盛岡市盛岡駅西通)
- 内容 遺族のこころのケアに関する情報提供、語り合い、分かち合い
- 申込・問合せ 新規の申し込みは、開催日の2日前まで
岩手県精神保健福祉センター
☎(629)9617



空き店舗を活用した紫波総合高等学校の生徒による商品販売も大人気でした(8日)

女性「ラジオ放送を聞いてきました。アットホームな雰囲気のお祭りですね。平井邸の古いピアノを見るのも楽しみです」と話していました。鈴木会長は「町外からのお客さんも多く、反響が大きかったと感じています。まちの歴史と各店舗の強みを生かしながら、オガール地区と連携した新たなにぎわいをつくっていければ」と今後の展開に期待を寄せていました。

※「くらみち」とは、平成20年に完成した「くらしのみちゾーン」のこと。

街の魅力をPR 日詰商店街で くらみち フェスティバル

日詰商店会(鈴木弘幸会長)は11月6日から8日まで、日詰商店街で「くらみちフェスティバル」を開きました。「まちの駅」として親しまれている「なん・バザホール」での農産物や飲食物の格安販売のほか、各飲食店が連携して開催した「食堂まつり」や「はしご酒まつり」などが行われました。8日には、大正時代の邸宅「平井邸」でのお茶会やラジオの公開生放送など、さまざまなイベントが行われ、大勢の客でにぎわいました。矢巾町から訪れた



古館産直センターで小川ユリ子組合長(右)からお話を聞く学生たち

**各産直の魅力伝えよう！
産技短生がポスター制作**

産直のまち「紫波」のPRを進めるため、10月から、産業技術短期大学校産業デザイン科の学生が10産直のポスター制作に取り組んでいます。これは、学生たちの卒業研究として取り組まれているもの。学生たちは、各産直で取材や聞き取りをしながら、産直ならではの店と客との距離の近さや温かさ、各店舗の個性などを肌で感じながらイメージを膨らませており「お客さんの視点で、産直を巡ってみたいようなポスターを作り、産直を盛り上げていきたい」と意気込んでいます。ポスターは2月末に完成予定。学生たちの活動の様子は「産直のまち紫波」のホームページでご覧になれます。

地域を元気にする場づくり 「志和蚤の市」



趣きのある雰囲気の中、たくさんの来場者が
人とのふれあいや買い物を楽しみました

志和八幡神社の境内で11月9日、「志和蚤の市」が開かれました。地元の有志の皆さんが「地域を元気にしたい」と企画したもので、今回が初めての試み。町内外から約450人が訪れ、掘り出し物がないか、骨董や古書、農産物、小物などを扱う9店舗の商品を1点1点眺めていました。実行委員の熊谷育子さんは「予想以上のにぎわいでした。この蚤の市が、地域の方々や若者が集い活躍する場になっていけば、次回は桜の咲く時期に開催したいです」と手ごたえを感じていました。



古館地区の事例に真剣に聞き入る参加者

自主防災組織が互いに学び合う交流会

古館ふれあいホールで11月15日、自主防災組織交流会が行われました。町内の自主防災組織の代表やこれから立ち上げようとしている地区の皆さんなど約120人が参加。古館地区の取り組みが発表された後、参加者から困っていることや、他の地区に聞いてみたいことなど、さまざまな意見が出されました。「民生委員と自主防災組織で情報共有することはできないだろうか」という悩みには「協定を結ぶことで可能だが、要援護者名簿を見ても、具体的にその人がどんな人で、どんな症状なのかは、訪ねてみないと分からない。実際に民生委員と一緒に1件1件歩いてみてやっと確かめられた」など、他の参加者からアドバイスがありました。町は、今後定期的に交流会を開く予定です。

ラッパ隊と女性団員が基本の規律訓練



敬礼のときには、手首をまっすぐに伸ばすのがポイント

紫波町消防団ラッパ隊（作山良樹分団長）主催の基本訓練は11月23日、紫波消防署で行われました。今年新たに入隊した女性3人を含むラッパ隊員と女性消防団員の全27人が参加し、消防署員から訓練礼式について説明を受けた後、敬礼や「右向け右」や「右習え」などの基本動作を実践しながら学びました。作山隊長は「ラッパ隊も本部団員の一人なので、模範となるような動作を身に付けることが大切。今後も継続して実施し、消防団のシンボルとしての音楽活動を深めていきたい。女性団員の活躍の場を広げるとともに若手団員の増員にもつながりたい」と抱負を語っていました。現在、町消防団員は539人（定員604人）、女性消防団員は9人です。

第4回サイエンスおはなし会

環境について学べる紙芝居、手回し発電体験、キャンドル作りをします。

■日時 1月11日(日) 午前10時30分～正午

■会場 情報交流館 1階 市民交流ステージ

■対象 小学1～4年生の児童

■定員 20人(保護者同伴可)

■申込・問合せ 12月16日(火)から定員になり次第締め切り 紫波町図書館 ☎671-3746

図書館からのお知らせ

花巻市立図書館の利用者範囲が拡大されました

10月27日から花巻市立図書館の利用者範囲が拡大されました。これにより、紫波町在住者も本の貸し出しサービスの利用が可能になりましたので、お知らせします。

◎利用できる花巻市立図書館 花巻図書館、大迫図書館、石鳥谷図書館、東和図書館

◎利用できる市町 盛岡市、宮古市、北上市、遠野市、奥州市、雫石町、紫波町、西和賀町

※利用登録には、本人確認のできる運転免許証、保険証、学生証などが必要です。

三川
紫波町図書館
SHIWA PUBLIC LIBRARY

終了後も、民藝品を手にとって見たり、お二人からお話を聞いたりするなど、話の余韻を楽しむ人の姿が多く見られました。



地元の風土が育む「手仕事」の良さを次世代に

夜のとしよかん
第3夜

図書館で10月28日、「夜のとしよかん」第3夜が行われ、「現代の手仕事の話」と題し、ゲストスピーカーの「手仕事フォーラム」代表の久野恵一さんと志和地区の「型染工房小田中」の小田中耕一さんがお話しました。約70人の来場者は、民藝品が生まれる背景にある地域性や洗練されたデザイン、作り手の誠実さ、そこに見出す「美」について語るお二人の話に、興味深く聞き入っていました。久野さんは最後に「その地に根差した人が作る品を、地元の人が認め、使い、広めていくことが民藝を育てる発火点となる。皆さんにもぜひ、身近な地域で作られたものを使ってほしい」と呼びかけました。

催し

親子で楽しいそば打ち体験

稲藤第一農産加工組合が提案する食育推進事業として、生産量県内一の地元産そば粉を使ったそば打ち体験と、できあがったそばの試食をします。(そばのお持ち帰りもあります)

■日時 1月10日(土)

午前10時30分～午後1時30分

■会場 情報交流館1階キッチンスタジオ

■講師 稲藤第一農産加工組合

西在家悦子氏

■対象 小学生の子と親

■定員 各時間2組(午前10時30分、11時30分、午後0時、0時30分)

■参加料 親子1組 1000円

■持ち物 エプロン、三角巾、上履き

■申込・問合せ 1月7日(水)まで

農林課 食育担当

☎(672)2111 内線3312

有線(01)8822

「親子で伝統食をつくる」

地域に伝わってきたひな祭りにちなんだお話を聞き、親子で伝統食を作ってみませんか。

■日時 1月14日(水)

午前9時30分～午後1時

■会場 保健センター 調理実習室

■内容 ひな祭りのお話と調理体験(ひなまんじゅう、きりせんしょ、はなの花ずし、お吸い物)

■講師 岩手県食の匠 細川玲子氏/紫波町観光案内「じゃ・べー」久慈和子氏

■対象 小学生の子と親 12組

■参加料 親子1組 1000円

■持ち物 エプロン、三角巾、上履き

■申込・問合せ 1月7日(水)まで

農林課 食育担当

☎(672)2111 内線3312

有線(01)8822

仕事に役立つ「1」講習

母子家庭の母親を対象とした、「1」講習会です。申し込みの上、ご参加ください。

受講無料

■日時 2月1日(日)、8日(日)、15日(日)、22日(日)、28日(土)(全5回)午前9時30分～午後4時30分

■会場 リンクアカデミー資格スクール大

米盛岡校(盛岡市盛岡駅前通)

■対象・定員 母子家庭の母 12人

■申込・問合せ 1月15日(木)まで

岩手県母子寡婦福祉連合会

☎(654)98838

お知らせ

平成27年度「子どもの家」利用申込は1月9日(金)まで

「子どもの家(学童保育施設)」の利用を希望する人は、福祉課で配布する申請書に必要書類を添付し、福祉課子ども室に提出してください。継続して利用を希望の人も申請が必要です。なお、入所希望者が定員を超えた場合は、新1年生が優先されます。

■対象 共働きなどで、放課後にご家族が留守になる家庭の小学生(おおむね3年生まで)

■使用時間 (平日)下校時～午後6時(土曜・長期休み)午前8時30分～午後6時

■定員 日誌子どもの家 50人/日誌第二

子どもの家 35人/古館子どもの家 50人

／古館第二子どもの家 30人／古館第三子どもの家 50人／赤石子どもの家 50人／赤石第二子どもの家 30人／水分子どもの家 10人

■申込受付 1月9日(金)まで

福祉課子ども室 (平日午前8時30分～午後5時15分)

※毎週月曜日は午後7時まで窓口延長しています。

※結果通知 3月上旬ごろ通知します。

※「片寄子どもの家」「ぬくもり放課後児童クラブ」「星山子どもクラブ」への入所希望者は、各団体に直接申し込みください。

■申込・問合せ

片寄子どもの家 ☎(673)6060

(担当:川村)／ぬくもり放課後児童クラブ ☎(671)7300 (担当:熊谷)／星山子どもクラブ ☎(672)6511 (担当:葛西)

■問合せ 福祉課子ども室

☎(672)2111 内線1532

蜜蜂を飼養している人は1月31日までに届出が必要です

昨年、養蜂振興法が改正されたことにより、趣味で蜜蜂を飼養している人にも蜜蜂飼育届の提出が義務付けられました。届出書は、毎年1月31日までに盛岡広域振興局に提出する必要があります。ただし、花粉交配用に飼養する人や、学術研究などのために密閉された空間で飼養する人は除外されます。届出の様式など、詳しい内容は問い合わせください。

■問合せ

盛岡広域振興局 農政部 農業振興課

☎(629)6603

プラスグループでは一般事務パートを募集中! 詳細はお電話にて☎019-672-5020まで

土地・建物の有効活用等、ご相談賜ります

秘密厳守 相談・見積は無料

不動産のことなら

岩手県知事免許(1)第2440号・(公社)全日本不動産協会会員 プラスグループ (株)紫波中央不動産

〒028-3305 紫波町日詰字丸盛222-1(ソフトバンク紫波さん 隣り)

☎019-671-2161 紫波中央不動産 検索

眠っている不動産はありませんか

医療保険適用 在宅マッサージ

無料 お試し体験実施中!!

歩行が困難な方・身体にマヒがある方・不自由がある方・車椅子使用の方など...

お気軽にお電話ください。

☎090-3753-0594

紫波エリア担当

マッサージのプロフェッショナルを目指すマッサージ師さん募集!

ご病気や障害・高齢等により自力で歩行通院が困難な方を対象にした在宅で安心して受けられる医療サービスです。

あん摩・マッサージ・指圧師の国家資格保持者が施術します。医師の同意書が必要です。(書類は治療院にあります)

利用料につきましては、ご加入いただいている保険によって変わりますのでご相談ください。

レイス治療院グループ 盛岡となん整骨院 盛岡市三本柳10地割17-53 TEL.フリーダイヤル

☎0120-213-222

清掃センターの 年末年始休業について

盛岡・紫波地区環境施設組合清掃センターは、年末年始の期間、以下のとおりお休みします。

ごみ収集・ごみの受け入れ

12月31日(水)～1月4日(日)

引取りごみ

12月27日(土)～1月4日(日)

田圃有機の配達

12月28日(日)～1月4日(日)

ふれあい館(お風呂、ゲートボール)

12月29日(月)～1月5日(月)

犬猫などの処理

12月31日(水)～1月4日(日)

年末年始の し尿汲み取りについて

紫波、稗貫衛生処理組合は、12月30日(火)の午前中まで、し尿の受け入れをします。年末年始は大変混み合いますので、10日間程度の余裕を持ってお申し込みください。

■休業期間

12月30日(火) 正午～1月5日(月)

■し尿汲み取りの依頼

藤原清掃社 ☎673-6213

紫波衛生社 ☎672-2656

■その他の問合せ

紫波、稗貫衛生処理組合

☎672-2017 有線04-6068

特殊詐欺による県内の被害が 増加しています

県内特殊詐欺(振り込み詐欺など)の発生状況(10月末)

認知件数: 67件 (前年比+23件)

被害額: 3億609万円

(前年比-1億225万円)

◎こんな電話は詐欺です!

「レターパック、宅急便で現金を送れ」

「電話番号が変わった」「必ず儲かる」

「名義を貸してほしい」「ATMを操作してくれ」

■問合せ 総務課 消防防災室

☎672-2111 内線3143

大晦日オールナイト営業

12月31日(水)10時▶1月1日(木)22時まで

12/31
21:00～23:00
レストランにて
年越しそばの
販売

12/31
24:30頃から
餅つき、
餅振る舞い
先着200名

年越し
カウントダウン
終了後、大広間にて
鏡開き、日本酒
ラ・フランス
ジュース
のお振舞

紫波町小屋敷新在家90番地

☎019-673-8555

FAX 019-673-8556

ラ・フランス温泉館 検索

URL <http://www.lafrance.co.jp/>



ハダカのおつきあいー家だんらん。

La France

ラ・フランス温泉館

紫波の風土がみえるワイン
ぶどう栽培農家の思いから生まれた
100%地元産です

自園自醸ワイン 紫波

岩手県紫波町産葡萄100%のこだわりワイン

お問い合わせは県内酒販店・スーパー・百貨店にて

(株)紫波フルーツパーク 紫波町遠山字松原 1-11 (道の駅紫波の裏手)

☎019-676-5301 <http://www.shiwa-fruitspark.co.jp/>

紫波ワイン 検索

2014年産
新酒
にがりワイン
[ロゼ・甘口]
750ml

好評発売中!



検索

募 集

子ども・子育て支援事業計画 (案)への意見公募 市民参加

町は、新たに「紫波町子ども・子育て支援事業計画」を策定するため、原案に対するご意見を公募します。計画案は役場福祉課、中央公民館、各地区公民館、ゆいっとサロン(情報交流館1階)、紫波町図書館、役場ホームページ <http://www.town.shiwa.iwate.jp/cms/> 閲覧できます。

■募集期間

12月17日(水)～1月20日(火)

■提出・問合せ 住所、氏名、年齢を記載し、持参または郵送、ファクス、電子メールのいずれかの方法で提出

福祉課 3号室 ☎(672)2111

内線1531 FAX (672)2311

✉fukush@town.shiwa.iwate.jp

住宅リフォーム奨励事業の 募集のお知らせ

町は、町内に住んでいる人が町内の施工業者に依頼して行う住宅のリフォーム工事に対して、「平太くん商品券」を交付して

います。本年度の受付もあとわずかとなりましたので、住宅のリフォームを検討している人はご活用ください。詳しくは問い合わせください。

■交付内容

工事代金税抜30万円以上の10%の額に相当する商品券(上限10万円分)

■募集件数

9件程度(平成27年3月中旬までに工事が完了する人)

■申込・問合せ

都市計画課 まちデザイン室

☎(672)2111 内線5222

2015紫波冬まつり 「鍋・なべ合戦」の出店者募集

(一社)紫波町観光交流協会は、紫波冬まつりで行う「鍋・なべ合戦」への出店者を募集しています。皆さんの自慢の鍋でまつりを盛り上げてみませんか。

■日時

1月17日(土)

午前11時～午後3時

■会場

ラ・フランス温泉館 ホテル湯楽々交流プラザ

■対象

町内在住者

■出店料

3000円

■申込・問合せ

12月17日(水)まで

(一社)紫波町観光交流協会

☎(676)4477

「すこやか号」は年末年始も運行します

コミュニティバス「すこやか号」は、12月30日から1月2日までの年末年始期間も休まず運行します。

ただし、川西中線(12月31日、1月2日運行)については、志和稲荷神社と志和古稲荷神社への初詣参拝客などで周辺道路が渋滞することから、運行経路が次のとおり一部変更されます。

■経路変更

川西中線:土地改良区北側～八幡公民館～古稲荷の区間は経由しません。

■問合せ

岩手県交通(株)紫波営業所 ☎672-2120

紫波町役場 企画課 政策調整室 ☎672-2111(内線3223)





被災地と紫波の子どもたちをつなぐ

東日本大震災から3年半が経ち、被災地では今、何を必要としているのでしょうか。先日お会いした大槌町の人は、「『つながり』が欲しい」とおっしゃっていました。今月のゆいっとサロンでは、「被災された人たちのために自分たちができることをしよう」という紫波の子どもたちの取り組みを紹介します。

「口話20区子ども会」では、もうすぐ始まる冬休みの行事として、被災地の人をお招きし、被災地の今を知り自分たちのつながりを考える機会を作ろうと企画しています。当日は、自らも大槌町で被災しながら現在は釜石で団体に属して支援活動をしている「兜育恵さん」をお招きし、津波が襲った当日の様子や復興の状況についてお話を聞いた後、親子で羊毛フェルトを使ったマスコット作りをします。作ったマスコットは、被災者の皆さんが集う場所に飾っていただく予定です。子どもたちが作ったかわいい果物や動物のマスコットたちに、被災者の皆さんは、きっと元氣付けられほっとすることでしょう。

そして、紫波の子どもたちにとっては、少し衝撃が薄れてきた今だからこそ、改めて被災当時の様子を思い返し、復興が進んでいるとはいえまだ大変な思いをしている人々がいることを知り、「つながり」をつくっていくいい機会になればと思います。

「ゆいっとサロン」では、このような活動のお手伝いもさせていた

市民活動支援センター ゆいっとサロン

開設・電話受付時間：

午後1時～6時（月曜日休み）

☎676-2468

ブログ：ゆいっと気まぐれ日記

ゆいっとサロン

検索



釜石で復興支援の活動をしている一兜さん

今なら学割実施中 無料送迎バス運行中

通常価格より**10,000円**引きいたします!!

対象者：高校生・専門学生・大学生 対象期間：平成26年10月1日～12月末日まで

普通車 (MT)	通常 299,160 円のところ	普通車 (AT)	通常 284,580 円のところ
289,160 円 (税込み)		274,580 円 (税込み)	
277,000 円 (税抜)		263,500 円 (税抜)	

※左記の料金は最短期間の料金です。(全教習料、検定その他の費用を含みます。)
※卒業検定及び修了検定不合格の場合1時間以上の補修教習が必要となり、その後再受験となります。(補修教習1時間 4,800 円、午後 5,400 円、午後 6,480 円)
※卒業検定 (300 円) は別途金がかかります。(持ち込み可) ※お客様の都合により中止・延期・中止の場合、入学金と別に支払った教習等の料金は返金いたしません。
※高速教習は実車教習で行います。(但し、天候その他の理由で実車走行が不可能な場合は運転シミュレーターで行います。) ※他の割引との併用はできません。

公認 紫波中央自動車学校
〒028-3304 紫波町二日町字西七久保 66 番1 <http://www.shiwachuu.jp>
☎019-672-4316 ☎0120-219-196 しゃちゅう 検索

こずかた診療所
内科・リハビリテーション科

■診療時間平日 9:00～12:00/13:30～17:30
■受付時間平日 8:30～11:30/13:15～17:00
■休診 土曜・日曜・祝日

介護老人保健施設 博愛荘

■施設概要 在宅復帰に向けた支援を目的に、医学的管理のもと看護・介護及びリハビリテーション、その他日常生活のお世話をさせていただきます。
■利用対象者 65歳以上で介護保険の要介護1～5の認定を受けられた方。
※45歳以上の方は特定疾病の診断を受けなおかつ要介護1～5の方

矢巾町大字又兵衛新田5-67-1 医療福祉多機能ビルケアセンター南昌(矢幅駅西口)
☎019-698-2015(代) ☎019-698-3033(受付)

中央葬祭センター シンセラホール紫波

「しらゆり会員」募集中

特典

- 生花・盛籠(各種)1,000円割引
※税込21,000円以上の商品に限らせていただきます。
- 祭壇貸出料20%割引
- 通夜室使用料20%割引
- 仏具展示品10%割引
- 引き出物・返礼品10%割引

入会金 10,000円

中央葬祭センター「シンセラホール紫波」
岩手県紫波郡紫波町桜町字上野沢278
☎676-7676 FAX676-4404

「子どもが好き」「教えることが好き」な方へ

紫波町で ECCジュニアのホームティーチャー募集中!

ホームティーチャーとは、自宅や貸会議場で子どもたちに英語などを教えるお仕事です。

週に1日、2～3時間から始められて、他のお仕事や家事・育児との両立が可能! 未経験でも安心の研修制度もあります。まずはお気軽に説明会へお越しください。

資料請求・お問い合わせは

ECCジュニア 盛岡センター ☎0120-415-144
受付/平日10:00～18:00 (無料)

サービス付き高齢者向け住宅 ハートホームだいち

自分で選べる 自分らしい生活

ハートホームだいちは、安全・安心・快適なスローライフを満喫できる、サービス付き高齢者向け住宅です。

お電話での問い合わせ

☎019-613-8257 担当:吉田・遠藤 まで

詳しくはホームページをご覧ください
ハートホームだいち 検索
<http://www.daiti-home.com/>

年中使える 便利なトラクター

ヤンマードラクター F-230 1998y 322hr **中古** **1,580,000円**

ヤンマードラクター YM1510D 1985y 670hr **中古** **650,000円**

(株)マイタコーポレーション ☎019(697)3939
紫波郡矢巾町煙山17-78-1 (古物商:第211030000835号)

おさらいクイズ★ 知って分かって

Q 歩行者の安全を守るため、古館地区内で始まった交通安全対策の名前は？

●ごみを拾わなくてもごみがないのが理想ですね。1人1人の心がけが大切ですが、まず自分自身から気を付けて、協力できるところから始めてみようと思います。

(日誌地区・40代)



郵便はがきまたは電子メールで、①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号 ⑤答え ⑥A 今月号の『紫波ネット』のご感想／B 特集記事についてのご要望／C 広報紙に対するご意見・ご要望のいずれかを記入の上、ご応募ください。応募期限は**1月8日(木)**です。

〒028-3392 紫波町役場 企画課 情報政策室「おさらいクイズ」係 ☐joho@town.shiwa.iwate.jp
正解者の中から、抽選で図書カードをプレゼントします。たくさんのご応募をお待ちしています！

町長メッセージ

「ふるさととは遠きにありて思ふもの」と詠んだのは石川県金沢の詩人、室生犀星だが、北陸新幹線の延伸により、富山、石川も遠くの県ではなくなる。東北新幹線も函館までつながる時代である。

「ふるさと」という言葉には独特の響きがある。私の同級生の多くが集団就職列車で、日詰駅から夕刻、学生服、セーラー服で故郷を後にした。今はそれぞれの職場で活躍し立派に家庭を築いている。そんな世代とその先輩たちが年に一度集うのが、紫波町ふるさと会の集いである。

今年も錦糸町のホテルで11月2日、28回目が開催された。町からも中学生をはじめとする星山神楽保存会の皆さんが郷土芸能を披露して大きな拍手が送られた。私も小学生のころ遊んだ近所のひと、60年振りに再会し楽しいひと時であった。各地区のテーブルでも話が弾んでいた。町の物産販売や、福引景品を提供して

いただいた方々に感謝申し上げます。

しかし、藤原洋雄会長（赤沢出身）のお話では、参加者が少しずつ減っているとのこと。われわれ団塊の世代も定年を迎えたが、まだまだ元氣。来年は同級生にも参加を呼び掛けたいと思っている。

「異土の乞食^{かた}となるとも歸^{かえ}るところにあるまじや」。それは一つの気概としても、帰る故郷が無くなる方がもっと悲しいことであろう。人は帰るところがあるからこそ、外に向かつて大きな力を発揮できる。ふるさと会の皆さんにも「紫波のニュースが流れると、とてもうれしい」と励まされた。

平成27年の正月は大型連休、新幹線で盛岡まで2時間半、紫波に帰り新年に向かって大いに英気を養っていただきたい。皆様も家族そろって良い年を迎えられますことをお祈り申し上げ、メッセージとします。

熊谷 泉

当店には**認定眼鏡士**が在籍しております

詳しくはWebで

目明かし堂

検索

<http://www.meakashi.com>

☎676-2838



スマホ用QRコード

メガネは認定眼鏡士の店でお選び下さい。

各眼科処方箋承ります。

銭形争いのあるさと紫波町のメガネ店

眼鏡屋目明かし堂

有限会社 サトウ時計店

紫波町日詰字郡山駅209(日詰商店街・バス停前)

私のメガネは

「認定眼鏡士」に作ってもらいました。



相心館 ゆう美容室

今期最後のカットまつり

12月19日 夜受付延長19時まで

2014感謝祭
実施中
12月31日まで

パーマ・カラー・ヘナ¥1000引き
縮毛矯正¥3000引き/ハットスパ20%引き
「カットブロー対象外」

メール会員になると、もっとお得な情報が
ゲットできます!携帯・スマホからアクセス!



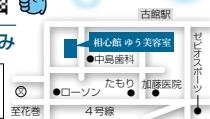
年末29日～31日は通常営業 年始1日～5日まで正月休み

〒028-3303 紫波郡紫波町高水寺古屋敷6-32

TEL019-676-5825

E-mail yu@posh.jp

OPEN 8:40
CLOSE 18:30





開発した器具をチェーンソーに取り付けて、10mの木材を半割りにする藤原さん



あじさい山で東屋を建てている様子(10月26日)。クリやマツ、スギなどが使用されており、どっしりとした安定感と独特の温もりが感じられる。



東屋の柱になったクリの木。複雑な形の「ほぞ」も、器具を使用することでより正確に、簡単に行えるそう。



藤原定雄さん
(連絡先 赤沢公民館 ☎676-3036)

シリーズ*行ってみよう
訪ねてみよう紫波の達人

自然とともに生き、 木のある暮らしを楽しむ

藤原定雄さん

今年10月末、赤沢地区牛ヶ馬場の「あじさいロード」の途中にある通称「あじさい山」のてっぺんに、新たに東屋が建てられました。この東屋作りの中心として活躍したのが、この土地の持ち主であり、家業のブドウ農家を営む傍ら、さまざまな木工品の製作や木材を加工するための装置を自作している藤原定雄さんです。藤原さんは「椅子やテーブルも作る予定です。たくさんの方が訪れる憩いの場所になればいいなあと思います」と期待を寄せています。

藤原さんが丸太加工を始めたのは、今から約13年前のこと。子どものころからの夢だったログハウス建築に挑戦する中で「丸太をもっときれいに半割りにする方法はないものか」と考え、幾度もの試行錯誤の末、チェーンソーに取り付ける器具を開発。その後、木の中心を円形にくり抜く器具や、すり鉢状に加工する器具などを次々と製作し、丸太の周りに一定の切り込みを入れ

るための器具は、特許の認定も受けました。藤原さんは「全て小型なので持ち歩くことができ、伐採した現場そのまま加工することが可能です。身近にある地域の木材を生かし、気軽に木工に挑戦する方が増えるきっかけになればうれしいです」とこやかに語ります。

そんな藤原さんが新たに力を入れて開発しているのが、先端に付けたチェーンソーのスロットルを空気で操作し、地上に居ながらにして高所の伐採する装置。近年、伸びすぎた木々の手入れに困っている人が多いと聞き、簡単に行える方法はないかと考えて開発したもので、現在試作しているものは最高16メートルほどの高さまで切ることも可能だそうです。藤原さんが実際に器具を使って作業している様子はインターネットで見ることができますので、興味のある人は「maruta765」で検索してみてください。

情報求む！
あなたの身近な達人を
ご紹介ください

町は、皆さんの身近にある「これはすごい!」「みんなに広めたい!」という達人技や名人、職人、趣味人など、紫波の魅力として紹介したいと思う地域の方々(企業)の情報を募集しています。小さな情報でも構いませんので、ご連絡をお願いします。

【連絡先・問合せ】

〒028-3392 紫波町役場 企画課
情報政策室「紫波の達人」係

☎672-2111(内線3232)

✉joho@town.shiwa.iwate.jp